

えべつ型コミュニティ・スクール

地域とともにある
学校づくり

えべつCS通信

江別市教育委員会 教育部 総務課

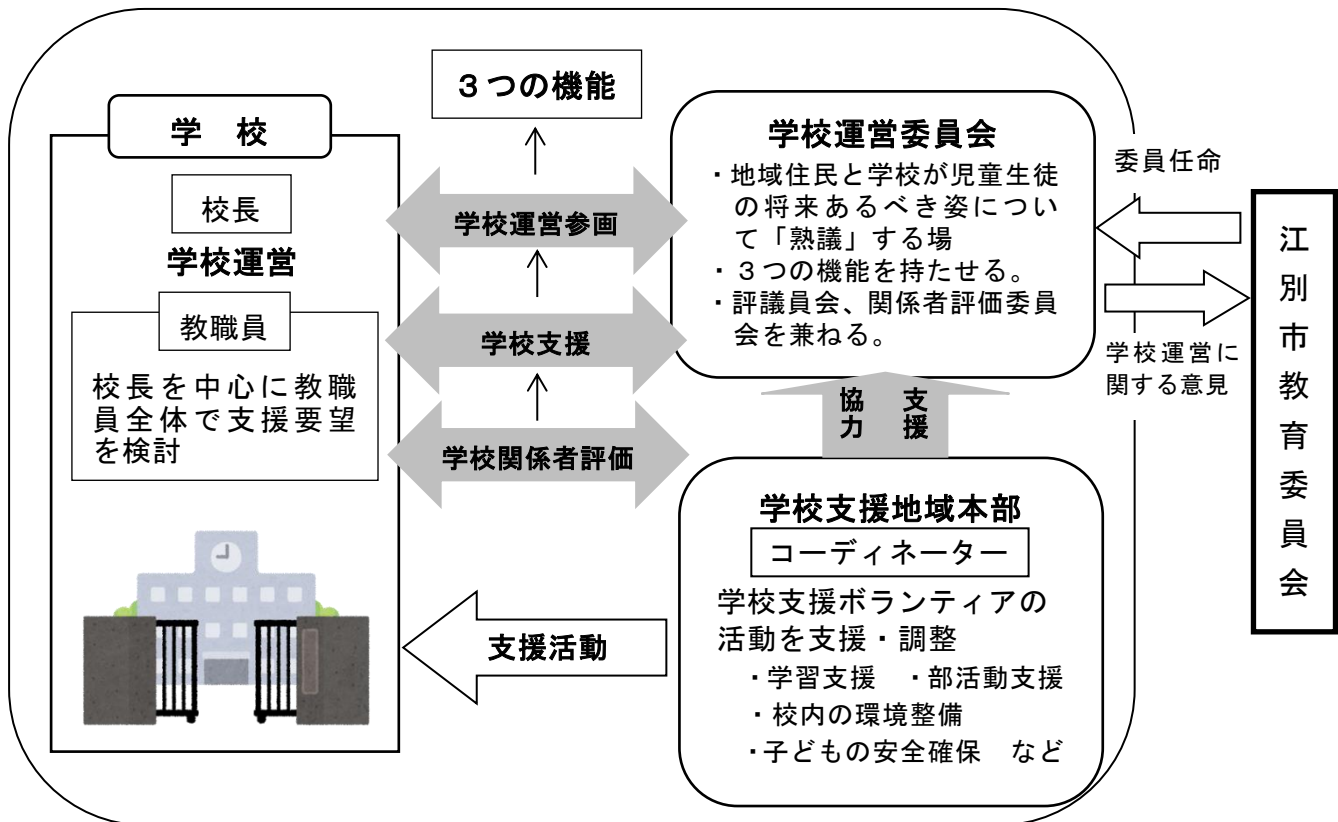


EBETSU

えべつ型コミュニティ・スクールが始まります

江別市教育委員会では、江別市の伝統（教育のまち：オール江別で子どもを育てる）を基盤として、これまで以上に学校と保護者、地域住民が一体となって、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めるため、平成29年度から市内小中学校に「えべつ型コミュニティ・スクール」を導入します。

【えべつ型コミュニティ・スクールのイメージ】



学校運営委員会には、3つの機能を取り入れます。

学校運営への参画

学校が抱える諸課題について話し合う場（熟議）を持ちます。

学校支援

従来の学校支援ボランティアの調整等を行います。

学校関係者評価

学校の自己評価の関係者評価を行い、学校運営に反映させます。

10名以内の保護者や地域住民などから構成される学校運営委員会が学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べるといった取組が行われます。

【江別市の伝統】

- 学校を大切にする風土
- 地域に根ざした教育

さらに推進

【えべつ型コミュニティ・スクール】

仕組みとその運用による持続的な協働

【従来からの学校支援ボランティア活動】

- 学習サポート教員
 - ・授業でのTT、少人数指導、放課後学習に各校へ
- 学生ボランティア
 - ・教育大札幌校、北翔大、札幌学院大、酪農大、情報大から
- 地域ボランティア
 - ・水泳指導、読み聞かせ、書写・ミシンの指導補助、土器づくり、長期休業中の学習サポート支援、赤ちゃんとのふれあい授業の他、見守り隊や土曜広場、おやじの会など、様々な活動が行われています。

◆平成28年度のボランティアの実践から（写真で紹介）



学習サポート教員



学生ボランティア



赤ちゃんとのふれあい授業

ボランティアの声

支援したことで子どもたちができるようになった時、一緒に喜ぶことがうれしいです。学校からも、私たちの活動が学力の向上につながっていると感謝と期待をいただくことで、やりがいを感じています。

（サポート教員）

母校の小学校で支援しています。授業や休み時間に子どもたちと接することにより、自分の中で「小学校の先生になりたい」という思いが一層強まっていくのを感じます。

（学生ボランティア）

ふれあいルームぽっぽ開始当初からのボランティア7年目を迎えています。赤ちゃんと母親対象の、子育ての情報交換の場ですが、休み時間に中学生も来て、抱っこしたりしています。思春期の中学生に自分を振り返る、いい場を提供できています。

（地域ボランティア）

江別市教育委員会では、これまでの伝統である地域が学校を支援する仕組みを生かしながら、「地域とともにある学校づくり」を進めてまいります。